

第1章 みえメディカルバレー構想 (P.1)

1 みえメディカルバレー構想の目的

みえメディカルバレー構想は、医療・健康・福祉産業(ヘルスケア産業)を戦略的に振興することにより、本県の地域経済を担う新たなリーディング産業の創出と集積を図るとともに、医療・健康・福祉に関連した質の高い製品やサービスを供給できる地域づくりをめざすものです。

【基本理念】

地域資源を有効に活用し、競争力のある医療・健康・福祉産業の振興に取り組み、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざします。

2 みえメディカルバレー構想に基づく取組

- 第1期「立ち上げ期」平成14年度から平成19年度
- 第2期「基盤整備期」平成20年度から平成22年度
- 第3期「成長期」平成24年度から平成27年度
- 第4期「開花期」平成28年度から令和元年度

第3章 現状、課題および今後の方向性(P.9-16)

1 現状・課題

(1) 社会経済情勢の変化と課題

- ①人口減少・超高齢社会の進行と若者の県外への流出
 - ・若者にとって魅力のある雇用の創出や高齢者の活躍の場の創出が必要
 - ・健康長寿社会の形成に資するヘルスケア産業の創出が必要
- ②第4次産業革命による産業・就業構造の大転換
 - ・新たな知恵や知識、技術を導入することによる新しい価値の創出が必要

(2) 企業アンケート調査結果から見る評価と課題

- ・みえメディカルバレー構想の取組について一定の評価が得られたものの、今後も継続した取組が必要
- ・人材不足等残された課題への対応も必要

2 課題をふまえた今後の方向性

(1) 取組の必要性

- ・さまざまな課題に対応するため今後も産学官民が連携した取組の継続が必要
- ・短期に大きく変化する社会経済情勢の中、変化に対応できる柔軟な仕組みの構築が必要

(2) 今後の方向性

- ・めざすべきヘルスケア産業の姿や取組の基本方向を概ね10年先を見据えた中長期的な視点で提示
- ・各実施主体が共通認識を持ちながら、それぞれの強みを生かし、独自性を発揮して主体的に取組を推進できる柔軟な仕組みを構築
- ・第4期実施計画における3つの基本方向は踏襲し、今後も継続
- ・社会経済情勢の変化に伴う課題への対応を新たに追加
- ・これらの新たな推進方を、「みえヘルスケアインダストリー5.0」と称する

第2章 みえメディカルバレー構想に基づく取組の成果 (P.2-8)

1 第1期実施計画から第4期実施計画までの成果

特に顕著な成果は、産学官民連携のネットワークが構築されたこと

- (1)ヘルスケア産業の連携基盤の充実・強化
 - 鈴鹿医療科学大学社会連携研究センターの設置、三重大学地域イノベーション推進機構の設置
 - 「メディカルバレーフォーラム」「みえ医療・福祉機器ものづくりネットワーク」 ○国内・海外との連携交流
 - 総合的な情報発信の充実(三重県薬事工業情報提供システム(PIIS)、メディカルバレー通信等) など
- (2)医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化
 - 四日市看護医療大学の開学、鈴鹿医療科学大学薬学部の設置、三重大学産学官連携伊賀研究拠点の設置
 - みえライフイノベーション総合特区制度の活用
 - (研究開発支援拠点MieLIP及び統合型医療情報データベースの整備・活用) など
- (3)新たな健康需要に対応するヘルスケア産業(次世代ヘルスケア産業)の創出
 - 健康寿命延伸産業の創出、認知症ケア製品等の普及・開発 など

2 みえメディカルバレー構想(平成14年度から30年度までの17年間の取組)に係る経済波及効果
約7,575億円

第4章 みえヘルスケアインダストリー5.0 (P.17-19)

1 めざすべき姿

みえメディカルバレー構想の基本理念とこれまでの取組をふまえ、本県が持つ高度なものづくり技術や人材など地域が保有する豊富な資源、産学官民連携の支援基盤等の強みを発揮し、ライフイノベーションを推進することにより、新たな健康需要や社会経済情勢の変化に対応したヘルスケア分野の優れた製品・サービスの創出と県民の豊かさに貢献しています。

2 4つの基本方向

(1) ヘルスケア産業の連携基盤・研究開発基盤の充実・強化・活用

- 【取組例】 ○県内医療・福祉機関等が参画した実証フィールド体制の構築
○医療・福祉現場等ニーズ収集の取組促進 など

(2) 医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化

- 【取組例】 ○革新的な医薬品、戦略的医療機器および高付加価値な機能性食品等の創出
○地域資源を活用した製品・サービスの創出 など

(3) 新たな健康需要に対応するヘルスケア産業(次世代ヘルスケア産業)の創出

- 【取組例】 ○次世代ヘルスケア産業(健康寿命延伸産業、認知症ケア製品・サービス等)の創出 など

(4) 社会経済情勢の変化に伴う課題への対応 【新規】

- 【取組例】 ○社会経済情勢の変化に対応したヘルスケア産業人材の確保および発掘・育成
(若者に魅力のある仕事の創出、円滑な事業承継の促進など)
○IoT、ビッグデータ、AIなどを活用した新たな製品・サービスの創出 など

3 みえメディカルバレー推進代表者会議による連携・検証等

- (1)進捗状況の把握・連携
 - ・情報共有を行うことで全体の進捗状況を把握するとともに、各実施主体相互の連携を促進
- (2)めざすべき姿や取組の基本方向の検証・見直し
 - ・10年を経過しない時点であっても、流動する社会経済情勢などをふまえた検証を行い、必要があれば見直しを行う